



帰国者・入国者の感染症を疑って！

県内の医療機関では、4月にインドからの帰国者が麻しん（はしか）、6月に入国者がデング熱と診断されています。夏休みで人の移動が活発になると、輸入感染症の患者が来院する可能性が高まります。

海外渡航歴の確認など、輸入感染症を意識した診療をお願いします。

日本感染症学会

症状からアプローチする

インバウンド感染症への対応
感染症クイック・リファレンス



厚生労働省
検疫所 FORTH



厚生労働省
海外渡航する皆様へ



茨城県保健医療部
公式Twitter



茨城県保健医療部感染症対策課

☎ 029-301-3233



主な感染源	注意すべき病気	主な発生地域	滞在地域				予防方法		主な症状			
			リゾート 観光地	都市部	地方の 町や村	森林・原野	その他	予防接種	発熱	下痢	その他	
食べ物 水	★ E型肝炎	世界各地	●	●	●	●	十分火の通った食べ物を食べる 生水は食べない		●		倦怠感、黄疸（体の皮膚や 白目が黄色になる）	
	★ A型肝炎	世界各地（特に、水道設備が 整っていない地域）	●	●	●				●	●	倦怠感、黄疸（体の皮膚や 白目が黄色になる）	
	★ 赤痢	世界各地（特に、水道設備が 整っていない地域）	●	●	●					●	●	激しい腹痛
	★ 腸チフス	世界各地（特に、水道設備が 整っていない地域）	●	●	●					●	●	倦怠感、比較的徐脈 （高熱なのに比較的脈が遅い）
	★ コレラ	世界各地（特に、水道設備が 整っていない地域）	●	●	●						●	●
事故・ケガ	★ 破傷風	世界各地	○	○	○	○	転倒やケガに注意する	●		飲み込みにくい、しゃべりにくい、 全身けいれん		
蚊	★ マラリア	熱帯・亜熱帯地域（アジア、ア フリカ、中南米）	○	○	● 夜間	● 夜間	夜間外出を控える 蚊帳の使用 虫除けローションの使用 長袖・長スボンの着用	予防薬（飲み薬）	●	○	悪寒、冷汗 頭痛、筋肉痛 意識障害	
	★ テング熱	熱帯・亜熱帯地域（アジア、オ セアニア、アフリカ、中南米、 中東）	● 昼間	● 昼間	○ 昼間		虫除けローションの使用 長袖・長スボンの着用 室内での蚊取り線香の使用など		●	○	目の奥の痛み 筋肉・関節痛、発疹	
	■ チクングニア熱	東南アジア、南アジア、アフリ カ、中南米	● 昼間	● 昼間	● 昼間	●			●		頭痛、筋肉痛、倦怠感、発疹、関節 痛、関節のはれ	
	■ ジカウイルス感染 症	アフリカ、東南アジア、南アジ ア、カリブ海諸国、アメリカ大 陸、太平洋島諸国	● 昼間	● 昼間	○ 昼間				●		発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦 怠感、頭痛	
	■ 黄熱	アフリカ、中南米		○	● 昼間	● 昼間			●		頭痛、筋肉痛 悪寒、嘔吐	
	■ ウエストナイル熱	北アメリカ ヨーロッパ南部 アフリカ、中東、アジア	●	●	●	●				●		頭痛、筋肉痛、倦怠感
	■ 日本脳炎	アジア		●	●				●		●	昏睡（痛みや刺激に反応しない）、 意識障害、頭痛
								●		●		
ノミ	■ ベスト	アフリカ、アジア、アメリカ大 陸		●	●	●	患者や動物（ネズミ、犬、猫）の 体液や排泄物への接触を避ける。 肌の露出を避け、虫除けを使う。		●		腺ベスト：リンパ節炎、敗血症 肺ベスト：高熱、呼吸器症状	
動物	■ 狂犬病	世界各地 （特にアジア、アフリカ）	◆	◆	◆	◆	むやみに動物に触らない 予め狂犬病ワクチン接種を受ける 犬等からの咬傷後、ワクチン等 による治療	●		●	治癒した受傷部の痛み 知覚過敏 恐水・恐風症状	
	■ 鳥インフルエンザ	アジア、アフリカ		○	●		農家、市場、動物園などの鳥類と の接触を避ける。手洗い、うがい		●	○	呼吸器症状	
	■ MERS	中東	◆	○	○		ヒトコブラクダとの接触を避ける		●	○	呼吸器症状	
人	★ 麻しん	世界各地 （特にアジア・アフリカ・欧州）	●	●	●			●（MRワクチン）	●	○	咳、鼻水、結膜充血、発疹	
	★ 風しん	世界各地 （特にアジア・アフリカ）	●	●	●			●（MRワクチン）	●		発疹、リンパ節腫脹	
	■ ポリオ	中東・アフリカなど		○	○		手洗いの実施	●		○	麻痺	
沼や湖河川	■ レプトスピラ症	世界各地			●		淡水（川や湖）での水浴びを控える		●		悪寒、頭痛、筋痛 腹痛、結膜充血	
	■ 住血吸虫症	アジア、アフリカ、中南米など			○	○				○	○	下痢（血性）、血尿、 肝臓、脾臓の腫れ

★：最も注意をしなければいけない病気

■：渡航先、活動内容によって注意しなければいけない病気

●：感染する機会が多いので十分に注意

○：感染する機会は少ないが注意が必要

◆：動物と接触する機会の多い場合には十分に注意

●：ワクチンにより予防できる

※予防接種は、渡航期間、地域、
活動内容により、医師と相談の上
実施する。

●：よくみられる症状

○：ときにみられる症状